平成 27 年 12 月 13 日
NPO 四季の森里山研究会
武本弘次・斉藤恒・下田孝・宮下修一

秋の名残と冬支度

１．落葉と葉痕・冬芽

①**落葉**樹は、寒い冬に生命活動を出来るだけ小さくして寒さに耐えようとします。そのために水の吸い上げを最小限にします。それには葉を落とすのが一番。動物の冬眠と一緒。
②**葉痕**とは、葉の枯れ落ちたあと。水分や養分が通る道管、師管が集まった維管束の痕（維管束痕）が、斑点のように残ったもの。木によっては動物の顔に見えたりします。
③**冬芽**とは、夏から秋の初めにかけて出来、冬を越冬状態で過ごし、春になってから成長する芽。冬芽には、**鱗芽（りんが）、裸芽（らが）、陰芽（いんが）**があります。

２．里山から恵みと里山での遊び

①**里山**とは。
・最も古くは「山方、里山方、蔵入」という言葉で使われ、その意味は、「山の土地、里山の土地、直轄地」（1661）。
・1960 年代には農家の裏山の丘陵から山地隊の森林を里山と名付けた。最近は里地里山という言葉もあります。
②**里山からの恵み**：木材、薪炭林、落葉を肥料に、食料、ほだぎ、工芸品材料、草木染め、
③**里山での遊び**：間伐材で遊ぶ、落ち葉の斜面で遊ぶ、チップで遊ぶ、

３．野鳥の冬の過ごし方

①**混群：**　エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、コゲラ
②**餌場と水場：**　設置時期と設置場所、餌
③**餌の貯蔵：**　モズのはやにえ、カケスのドングリ

４．コーラス「里の秋」　（作詞）斉藤信夫　（作曲）海沼実

①
静かな　静かな　里の秋
お背戸に木の実の　落ちる夜は
ああ母さんと　ただ二人
栗の実煮てます　いろりばた

②
さよなら　さよなら　椰子の島
おふねにゆられて　帰えられる
ああ父さんよ　ごぶじでと
今夜も母さんと　祈ります

③
あかるい　あかるい　星の空
鳴き鳴き　夜鴨の　わたる夜は
ああ父さんの　あの笑顔
栗の実たべては　思い出す

ホウノキの冬芽と葉痕

（次回の自然観察会は平成 28 年 1 月 10 日「冬越しと春の兆し」）